

KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION NEWS

URL <http://www.kifa-tokyo.jp/> E-mail info@kifa-tokyo.jp



2011

No.65

CONTENTS

- P.1 : 小平市民まつりパレード
- P.2 : 総合防災訓練に参加、KIFA 写真館
- P.3 : インタビュー “ネパール”
国際こどもクラブ “韓国”
- P.4 : 日本語教室
ボランティアさんインタビュー



小平市民まつりパレード

10月16日(日)

変わりやすいのは、秋の天気と何とやら…この日は、前日の雨で肌寒かったお天気とはうって変わって、心地よいお祭り日和!! そんな陽気も手伝ってか、集まった参加者の足取りも軽やかにみえました。

鮮やかな彩りで着るだけで元気が出そうな台湾のお祭りの衣裳に、女性らしく艶やかなチャイナドレスや、インドネシア・ウズベキスタン・インドの凛々しさ際立つ男性の衣裳、可愛いマントに帽子、カラフルなハッピーなどなど、それぞれ思い思いの衣裳に着替えて…いざ! パレードへ!!

出番を待っている大太鼓や御神輿などを傍らに眺めながらのスタート。「かわいいっ!!」「きれい!!」「ハロー!!」など沿道のあちこちから聞こえてくる声援に、みなさんお昼を過ぎて

強さを増した陽ざしに負けないくらいのとびっきりの笑顔で手を振って応えていました。

参加された外国の方々に感想を聞いてみると「暑い!」ではなく「楽しかったです!!」と、いい汗を光らせながら笑顔で答えてくれました。あとは「小平のおまつりは、おもしろいです。」「お天気が心配だったけれど、出来てよかったです。」なども聞きました。パレードの後は“どんぐりの会”の自転車発電に励んだり、パレードだけではなくお祭りのいろいろなしものを楽しんでいました。

今回は、スタッフも含め総勢41人でパレードをしました。回数を重ねる毎に盛りあがってきて、事務局からも喜びの悲鳴が♪来年のパレードも楽しみですね!!

東京都+4市合同総合防災訓練にKIFAも参加しました!

10月29日(土)

10月29日、都立小金井公園で行われた合同総合防災訓練に、「在住外国人支援のための合同連絡会議」第10ブロック(注)の一員としてKIFAも外国人と一緒に参加しました。

当日は快晴、会場は沢山の人でまるでお祭りのようににぎわい!防災機関による救助エリア、市民の共助による救助エリア、避難所運営エリアなどに分かれ、また体験ブース、飲物を配るテントやスタンプラリーなどがありました。「第10ブロック」テントには、外国人17名を含め計61名が集まりました。参加者は「中国語」「ハンゲル」「タガログ語」「英語」



担架訓練に参加

「やさしい日本語」のグループに別れ、ボランティアの案内でまずは会場を見て回りました。そんな中、中国語のグループは積極的に担架の訓練に参加し、テレビの取材も受けました。

その後全員集合、市民の共助エリアで倒壊家屋からの救出救助訓練をしました。参加者全員ヘルメットと軍手を着用し倒壊建物の前へ。消防官から訓練の説明を受けます。説明は日本語なので、必要な人にはボランティアが通訳をしました。訓練は、建物入り口の材木を取り除き、中へ入って人を見つけ、がれきを取り除いて人が外へ運び出し担架で運ぶという内容です。

まず始めに入り口前の材木をのこぎりで切ります。三人がチャレンジしましたがなかなか切れず時間がかかりました。材木を動かすのは全員で力をあわせ難なく終了。次は四人一



倒壊建物前で説明を聞きます

組となって建物に入り、散乱した家具などを除きけが人(人形)を外へ運びだしました。こちらも家具の移動は簡単にできましたが、人形を運ぶのはうまく出来た

組とバランスを取るのに苦労した組がありました。そして人形を毛布で作った担架に乗せ運んで訓練終了。訓練は外国人も日本人も、チーム全員で協力し合っていました。

そのあとは自由見学、解散となりました。解散後は芝生の上でランチパーティー。外国人とボランティアと一緒に輪になってランチやお菓子を食べながら、自己紹介や震災の時にどうしたかといった話などをしてにぎやかに過ごしました。

参加者に訓練の感想を聞いたところ、「日本に10年住んでいるが今回初めて防災訓練に参加した。」「ためになった。」「いろいろ体験出来てよかった。」「楽しかった。」とのこと。そして「実際の災害の時に訓練のようにできると思う?」の問いに、多くの人が「大丈夫、出来ると思う。」とのことでした。頼もしい!

今回の活動は、第10ブロック初の取り組みです。他団体との協力はスムーズにいかないところもありましたが、ボランティアさんからは「(連携の)初めの一步としてよかった。」との声が聞かれました。

今回参加した外国人も日本人も、もしもの時にはぜひこの経験を生かしてください。

(注)「在住外国人支援のための合同連絡会議」とは東京都生活文化局が設置した外国人支援団体の連絡会で、この中の第10ブロックに小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の関係団体が所属しています。



最後はみんなで記念撮影。お疲れ様でした!

~ KIFA 写真館 ~



ゆかたで楽しむ夏祭り
7月30日(土)



人気の台湾茶入門講座
9月10日~11月5日



小平市内ツアー 10月22日(土)
ふるさと村で種うどんをいただきました

インタビュー“ネパール”



一橋学園駅近くでインド・ネパール料理のお店を営まされて、まもなく2年になるチャパガイン・ニランジャンさんにお話を伺いました。お父様はインド人、お母様はネパール人の彼。3歳までをインド、その後は大学を卒業されるまでネパールの首都カトマンズで過ごされました。今年で日本在住約6年。イケメンでスタイルもよく、にこやかなニランジャンさん。来日を決めたのは大学を卒業する時、周りがみんな海外に留学するので、何となく日本を選んだそうです。「日本じゃなくてもよかったのですが…」と、全く日本語を喋れなかったのに来日してしまう度胸の持ち主！来日後、まず日本語を学ぶため川崎の学校に通い、居酒屋でアルバイトを始めようとしたそうですが、日本語が出来ないのでやっぱり働きに行くのをやめようと断ってしまったそうです。しかし、三カ月ほどたって再度連絡をして採用してもらいました。「調理の仕事は楽しかったですね。時給も上がりましたし日本語勉強のいいタイミングでした。」と彼。



その後、今度はお茶の水にある専門学校に通いながら歌舞伎町のアジア料理の屋台村でアルバイト。その間に調理師の免許を取得し、自分の店を

開くという昔からの夢を実現させるべく奮闘が始まりました。

「開店準備は本当に大変でした。一橋学園の駅近くにしたのはライバル店が無かったからです。お店を開くにあたり書類はたくさんあるし、従業員を集めるため人脈をフル活用したりと、やらなければならないことが山のように多かったです。やっと開店したと思ったら、お客さんは少ない、売上げは上がらない。またまた大変でした。気持ちを落ち着かせるために一度ネパールに帰国し、日本に戻ってきてから売上げが徐々に上がってきてひと安心しました。」



インド・ネパールレストラン「ビハニ」
店長ニランジャンさん

ネパール旅行の魅力や、多民族国家（約80の民族があるとのこと）のネパールは地域ごとに違う文化を見ることができ、ヒマラヤ山脈を空から一望できる遊覧飛行機があること、静かな景勝地ポカラ、そしてブッダの生誕地ルンビニ、国唯一の鉄道ジャナクプル鉄道など、トレッキングだけではなくネパールの見どころをたくさん教えてくれました。「いまは仕事一筋！結婚の予定は無いし、まだまだ考えられないです。ずっと日本で仕事をしていきたいです。」とまっすぐな瞳で将来を熱く語るニランジャンさん。私達も応援しています！

国際こどもクラブ“韓国”



10月15日(土)

こどもクラブでは毎回英会話のレッスンの後、いろんな国の方をお呼びして小学生たちの“国際交流”をしています。

この日来てくださったのは韓国のキム・ヒョンミさん。東京学芸大学の大学院生で教育心理学を勉強されているキムさんは背が高くきれいなロングヘアの素敵な女性です。



まずは「みんな韓国って知ってますかあ～？」と韓国の基礎知識からのスタートです。

「韓国と北朝鮮はもともとはひとつの国だったのに、今は北と南に分断されていますが、この南北を隔てる線を何というか知ってますか？」というキム先生の質問に、一人の小学6年生がハイと手を上げて「軍事境界線です。」と！…私たち見ている大人たちが内心オォッ！と驚きました。

この境界線は国境ではなく、戦争を休んでいるためのものであることや、南北に分断された理由を、自由主義・民主主義・共産主義という言葉を使いながら小学生にもわかりやすく説明していただきました。

キム先生はさすが母国韓国のソウルで高校の先生をしていただけあって、子ども達に教えるのがとっても自然で上手です！

・ハンゲル文字はどうしてできたのか？

・チマチョゴリの「チマ」はスカート、「チョゴリ」は上の

服という意味だということ。

・ビビンパの「ビビン」は混ぜる、「パ」はご飯の意味。などなど聞いたことがあっても良く知らないことを色々教えていただき、覚えておきたい韓国語のあいさつもみんなで声を出して練習しました。

その後は韓国のメンコ「タクジ」作りです。先生が用意してくださった広告の紙を折って四角の固いタクジが出来上がると、さあグループに分かれてやりましょう！日本のメンコと同じで床に置いたタクジがひっくり返れば勝ちです。でもメンコって今の子どもたちはやったことがないですよ！？みんな最初はタクジに当てることすらできなくて静か～にやっていたのですが、一人二人とひっくり返すことができるようになると、子どもの天性が呼び起こされたのか面白くなってきて、しまいにはあと一回あと一回と止まらなくなったのはやはり男の子たちでした。

日本ではゲーム機の流行などで忘れられかけているメンコ…新聞広告一枚あれば大きさや固さなどを工夫してMy Menkoを作り、何時間でも遊べるシンプルな遊び…を思い出させてくれた『タクジ』でした。

最後はみんながキム先生にカンサハムニダ！（ありがとう）アンニョンヒガセヨ！（さようなら）でお別れしました。



みんながタクジを作っています

日本語会話教室

“保育サービス”付き

外国人を対象にした「日本語会話教室」と受講生のお子さんの「保育」の現場を3年ぶりに取材しました。

教室は、上級・中級・初級に分かれています。先生1人に対して1～4人ぐらいの少人数制なので怠けてはいられません。

この日、初級では「あいうえお」のプリント中心に、単語の読み書きの練習。

中級になると教科書を使って動詞・過去形文の勉強をしていました。先生によっては、教科書より会話重視で当てられるので、受講生は楽しみながらも適度に緊張しています。

上級になると、長文の中の難しい言葉の使い方を学んでいました。例えば、「かぶりをふった」の「かぶり」や「～のはずみに～した」の「はずみ」の使い方。日本人でも間違っただけで使えそうですね。KIFAの先生は皆、資格を持って教えているプロなので、例文



日本語教室 楽しいティータイム

をあげ上手に教えていました。

この日は、タイ・ラオス・フィリピン・台湾・ロシア・中国から15名ほどの受講生でした。授業の合間のティータイムにお話を聞きましたが、非漢字圏の方は、日本語は「漢字」が難しいと言っていました…先生方、よろしくお願いします！



保育のようす

次に、1階にあるプレイルームに足を運びました。2人の可愛い男の子と3人の優しい保育ボランティアさんが集まって、絵本を見ています。(ボランティア歴15年以上のボランティアさんもいるんですよ！)「どんなことに気をつけていますか？」の質問には、「他のお子さんも来るので、怪我しないように気をつけています」また、「大変なことは？」には、「泣かれることです。勉強中KIFAのある3階まで聞こえて、親御さん(受講生)が心配して見に来たこともあるんですよ。」アットホームな雰囲気でした。

「託児付き日本語教室」は、KIFAならではのものなので、安心して子どもを預けられるからこそ勉強に集中できますね！

これから、「日本語能力検定試験」の指導もマンツーマンで行う予定です。外国人の皆様、もっと利用してください。

「世界の料理グループ」江連紀子さん

KIFAボランティアさんインタビュー(シリーズ第1回)

KIFAはたくさんのボランティアさんによって支えられています。このシリーズでは各グループのボランティアさんにお話を伺っていく予定です。初回は『世界の料理』の幹事として、KIFA設立当時からボランティアを続けてこられた江連紀子さんです。

Q. KIFAのボランティアを始めたきっかけは？

最初はフェスティバルの実行委員をしました。当時は福祉会館を借りて広場にやぐらを組んで、外国の方にその国の歌や踊りを披露してもらったりして、大規模だったですよ。

料理の方は、私は食べることが好きなので、発足当時は外国人のお宅におじゃまして料理を教わったこともあり、それが発展して『世界の料理』になりました。

Q. 今はどんな活動をされていますか？

主な活動は『世界の料理』教室を年3回、中央公民館で開催しています。外国の方に講師となっていて、世界の家庭料理を紹介しています。事前にリハーサルをして、まず講師の方には普段通りに作ってもらい、私たちボランティアは教室の人数に合わせて材料の分量を変えたり、手に入りやすい材料はスーパー等で買えるものに代えたりして、参加者がご家庭でも作っていただけるよう工夫していますよ。

Q. 教室で何か大変なことはありますか？

講師の方が作ってくれる料理はどれもおいしくて楽しんでいます。教室で気をつけているのは食中毒で、作った料理の

持ち帰りはお断りしています。

大変なのは講師になってくださる方をさがすこと。グループでは日本料理も『世界の料理』のひとつとして紹介したいと話合っていて、そこで来年2月は日本料理として『小平糴うどん』を取り上げる予定です。

Q. 江連さんはうどんを打つのですか？

私は「武蔵野手打ちうどん保存普及会」のメンバーで、小平ふるさと村で土・日・祝日に「糴うどん」を販売していますので月に数回出ております。地粉を使った手打ちうどんに、つけ汁は昆布と厚削りでダシをとり、干し椎茸やきのこと類と油揚げの入ったもので、うどんをつけながらいただきます。おいしいと評判で、天気の良い日は昼前に売切れてしまうこともあります。絶対に食べたいなら、雨の日がお勧めです。

Q. その他にもいろいろとボランティアをされているとのことですが、ボランティアを続けるコツは何でしょうか？

好きなことを仲間と一緒に楽しむこと。ボランティアといってもいい加減はよくないので、自分のやれる範囲でする、無理はしない、できないときは断る、ですね。

たくさんのボランティアを並行してこなす江連さん。いろいろやることで生き生きとしていられるそうです。これからボランティアをしてみたいと思う人には良いアドバイスになったのではないのでしょうか。江連さん、ありがとうございました！



編集後記

たった一年という短い間に、日本のみならず世界のさまざまな国々で、天災による被害が絶えることなく起こっています。被災されました皆様にお見舞い申し上げますとともに、“希望”や“絆”という宝を糧に一日も早い復興をお祈りいたします。(KM)

発行日 平成23年12月1日

発行 小平市国際交流協会

編集 機関紙グループ

〒187-0045

小平市学園西町2-12-22 学園西町地域センター 3階

TEL. 042-342-4488 FAX. 042-347-3003